

平成25年度第2回都道府県肝疾患診療連携拠点病院間連絡協議会
平成26年1月17日、独立行政法人国立国際医療研究センター病院国立医療
協力研修センター

肝炎総合対策の推進に寄与する事業内容事例報告

「道北・道東医療圏における肝炎患者・家族 が抱える問題点の実態調査」

大竹孝明¹⁾、高後 裕²⁾

- 1) 旭川医科大学 臨床消化器・肝臓学診療連携講座
- 2) 旭川医科大学 消化器・血液腫瘍制御内科

背景

- 厚生労働科研「正木班」の全体研究「C型肝炎患者に対するインターフェロン治療における地方圏差について」において、北海道・東北圏のインターフェロン治療の完遂率・SVR率はわずかではあるが他の地方圏よりも低い。その背景には老年人口比率、専門医数、病院アクセスの問題だけでなく、住民気質、経済的、社会的問題等様々な要因が関与している可能性があるが、それらは明らかとなっていない。

目的

- 北海道、主に道北・道東地域の肝炎患者と家族が抱える問題点、および、これら地域の肝炎診療におけるニーズを明らかにし、現状に見合った、より良い肝炎診療体制を推進するため、これら地域の肝炎医療の現状を調査するフィールドワークを行った。

道東・道北地域の肝炎医療に関するフィールドワーク

B病院

道北地域の中核病院のひとつ。
消化器内科があり、肝臓専門医
1名の他、消化器病専門医1名が
いる。

A病院

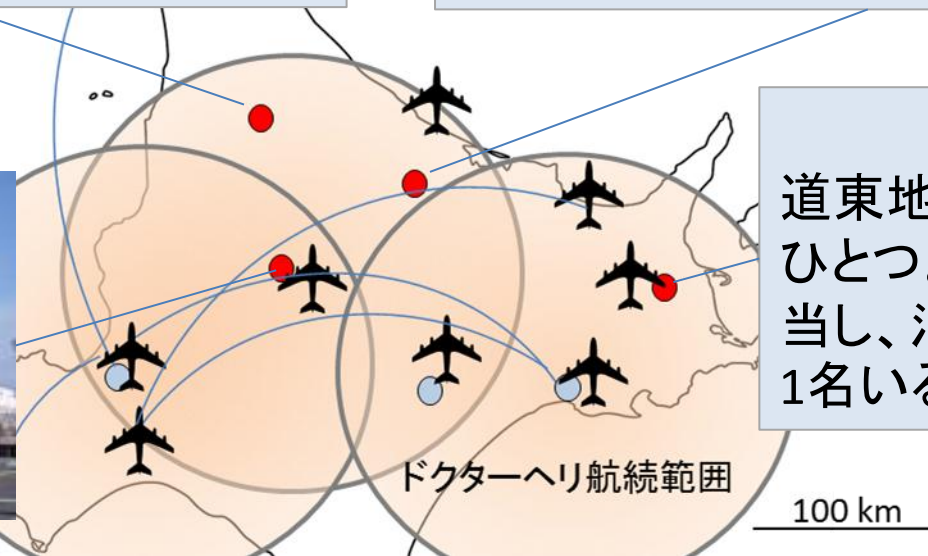
オホーツク地域の中核病院のひとつ。
肝炎は内科が担当し、肝臓専門医1
名の他、消化器病専門医3名がいる。

旭川医科大学



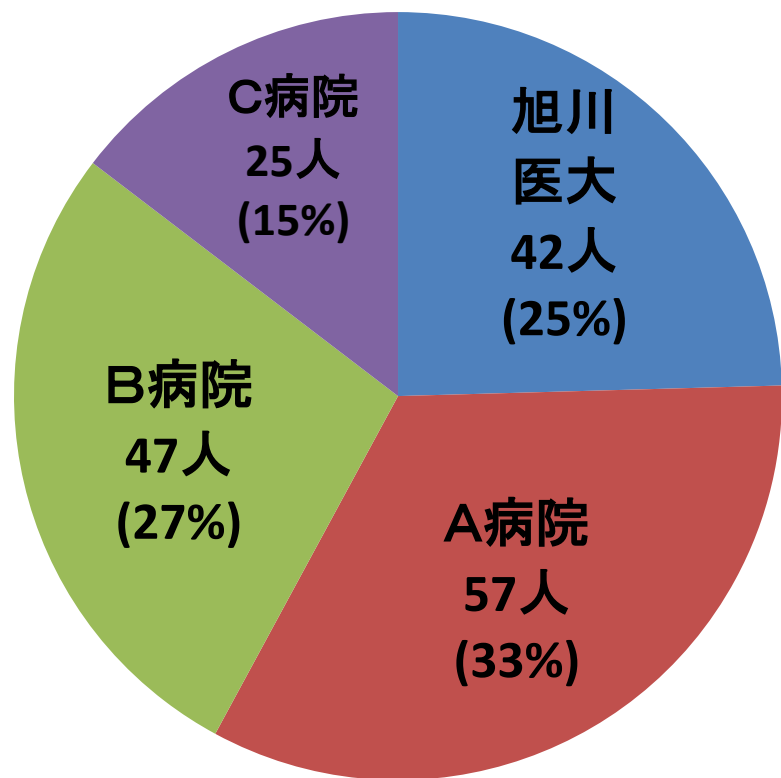
C病院

道東地区の中核病院の
ひとつ。肝炎は内科が担
当し、消化器病専門医が
1名いる。

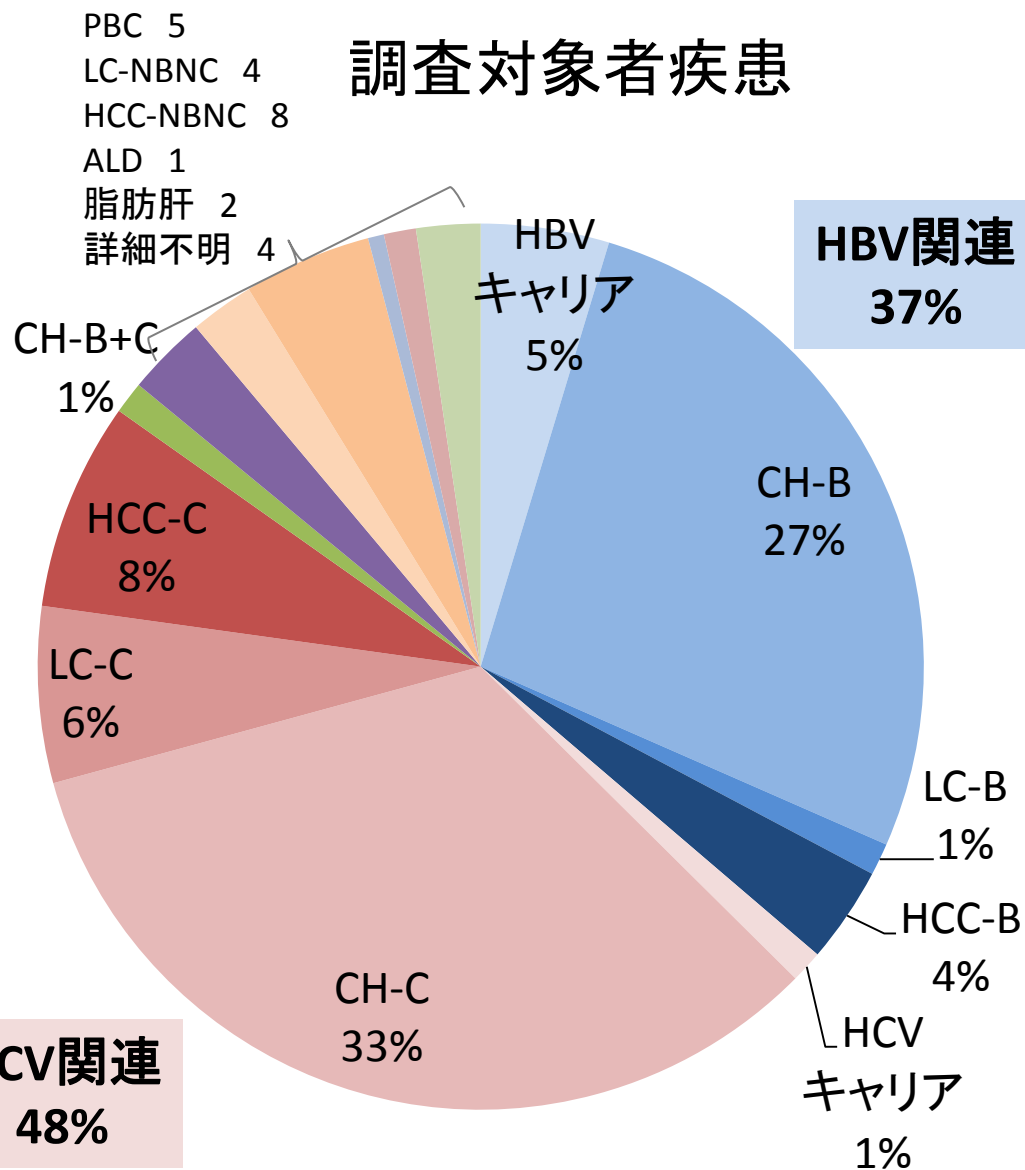


- 旭川医科大学と地域、診療体制、専門医の有無、連携体制が異なりそれぞれ特徴のある三関連医療機関で調査した。
- 調査員が地域に赴き、患者・家族と直接面談し、インタビュー内容をボイスレコーダーで録音しながら肝炎診療全般、助成面、生活面の現状を聴き取り、データベース化した。

施設別調査患者人数(171人)



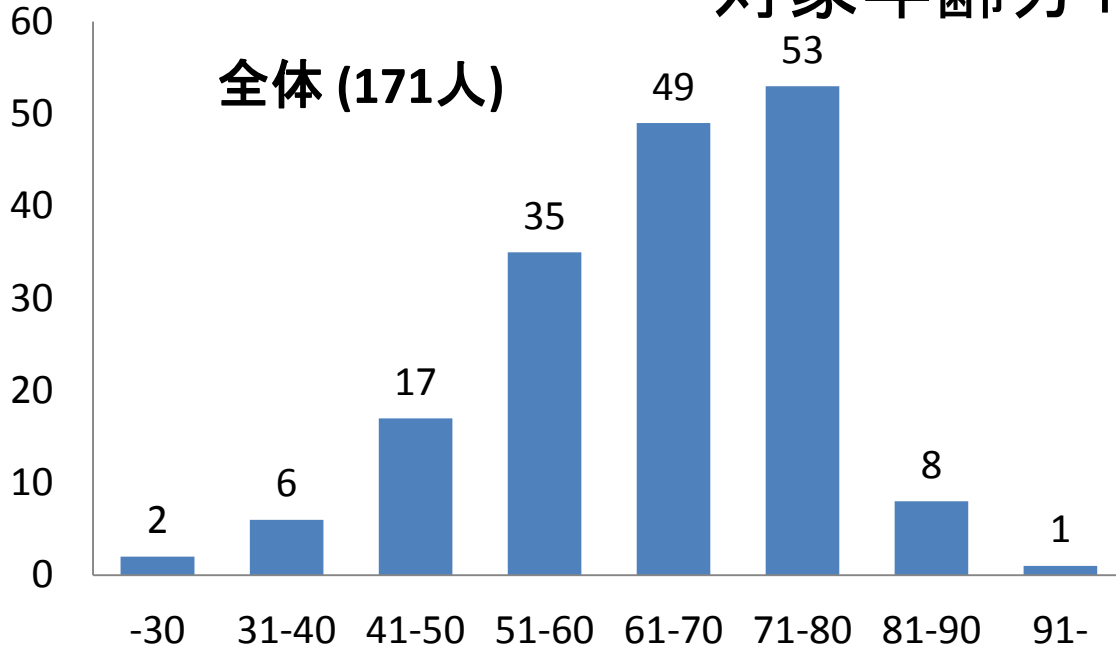
調査対象者疾患



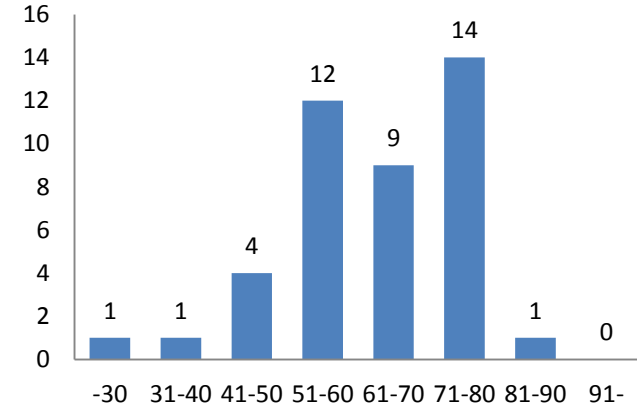
HBV関連疾患の比率が高いが、約半数の患者はHCV関連疾患であった。

対象年齢分布

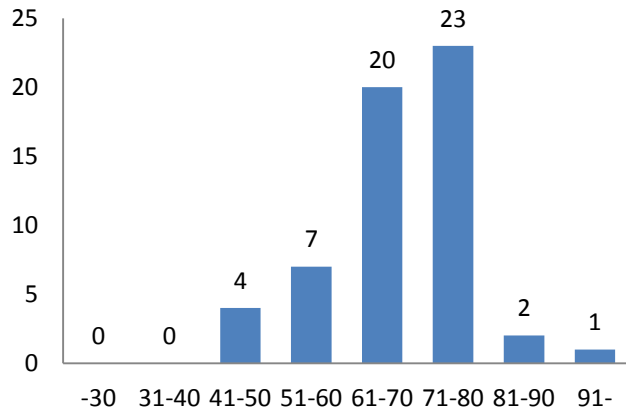
全体 (171人)



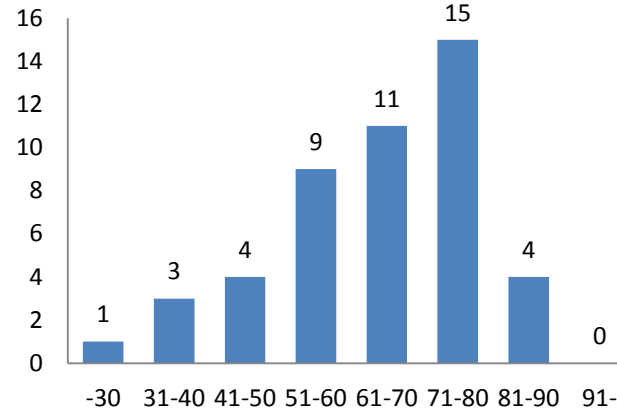
旭川医大



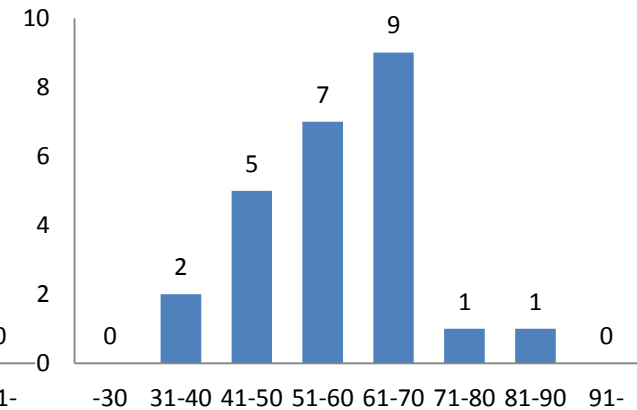
A病院



B病院



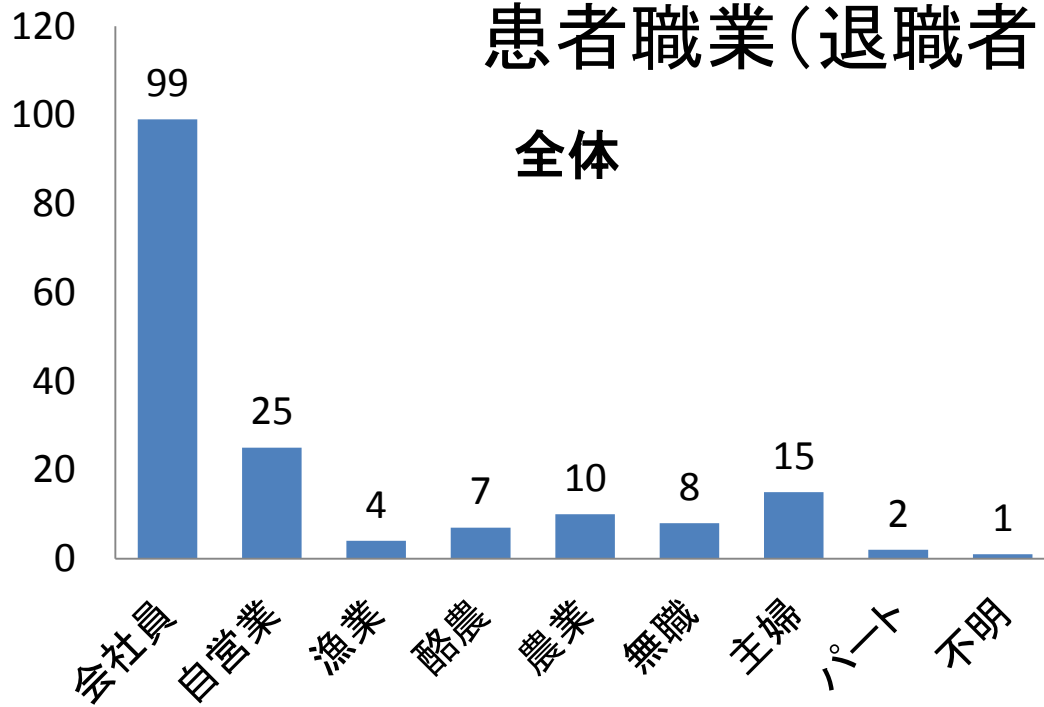
C病院



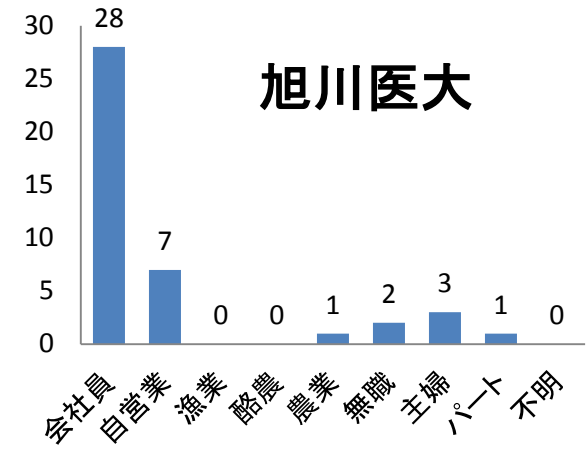
大学は50歳代と70歳代の二峰性、A病院とB病院は60歳代から70歳代の高齢者が主体。C病院はそれよりもやや若く、施設間、地域間で特徴がある。

患者職業(退職者は前職)

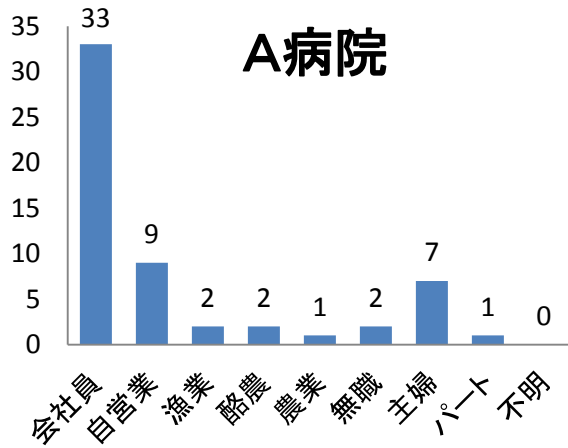
全体



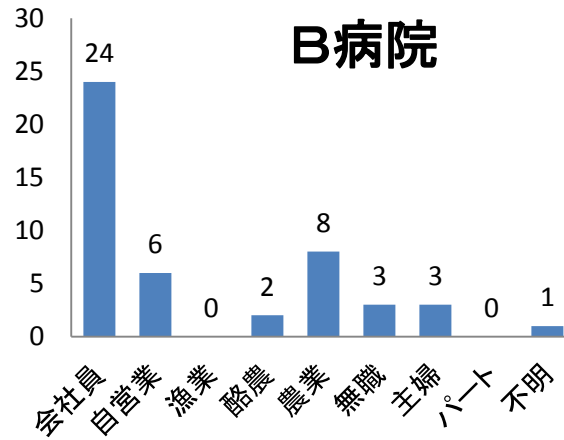
旭川医大



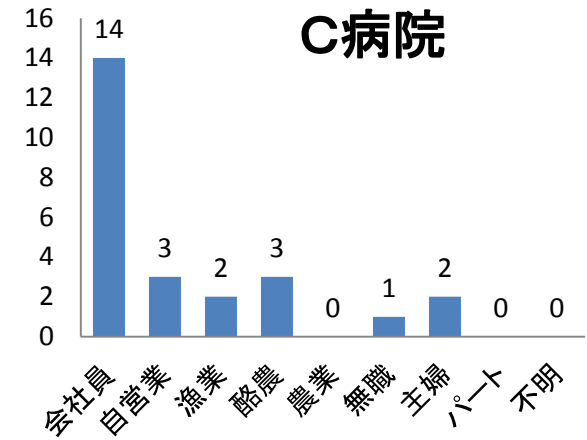
A病院



B病院



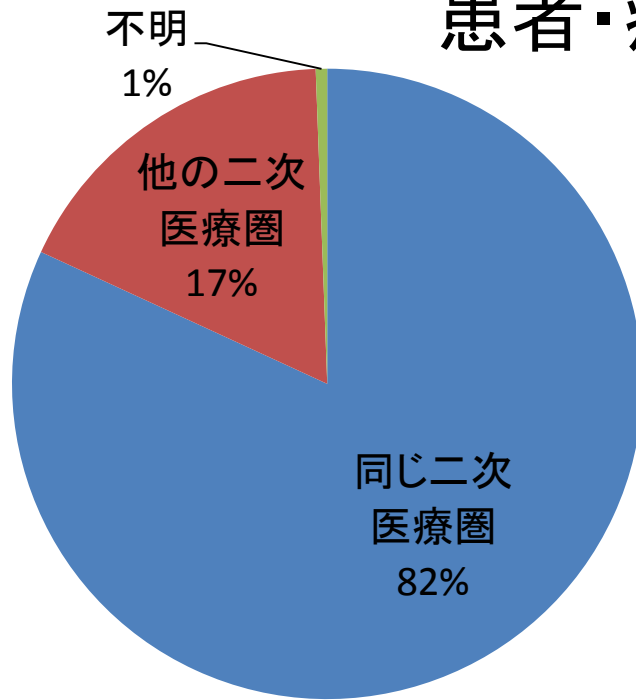
C病院



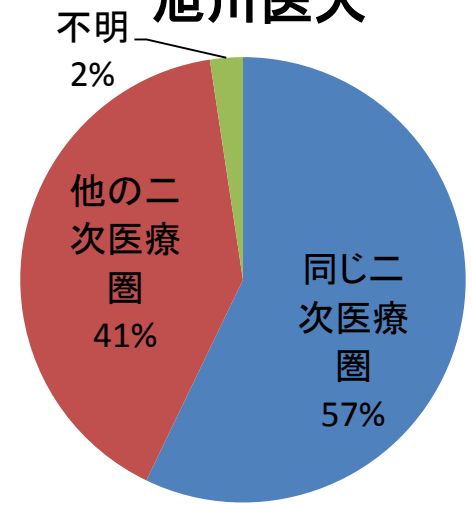
若干一次産業従事者が含まれているが比率としては多くはない。

患者・病院アクセス

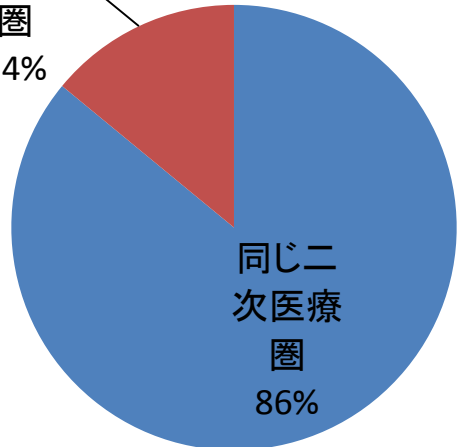
全体



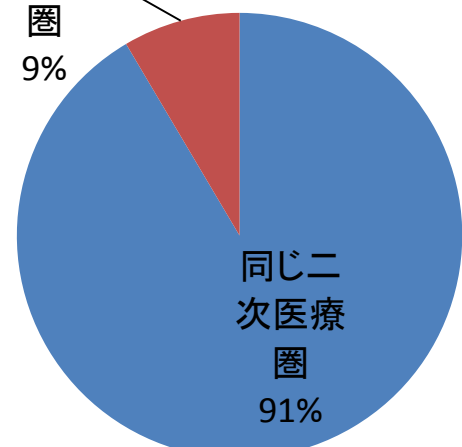
旭川医大



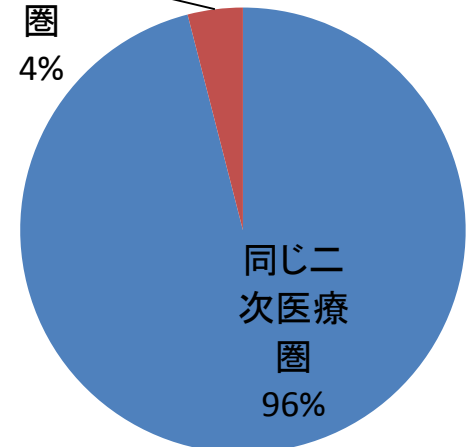
他の二次医療圏
A病院



他の二次医療圏
B病院



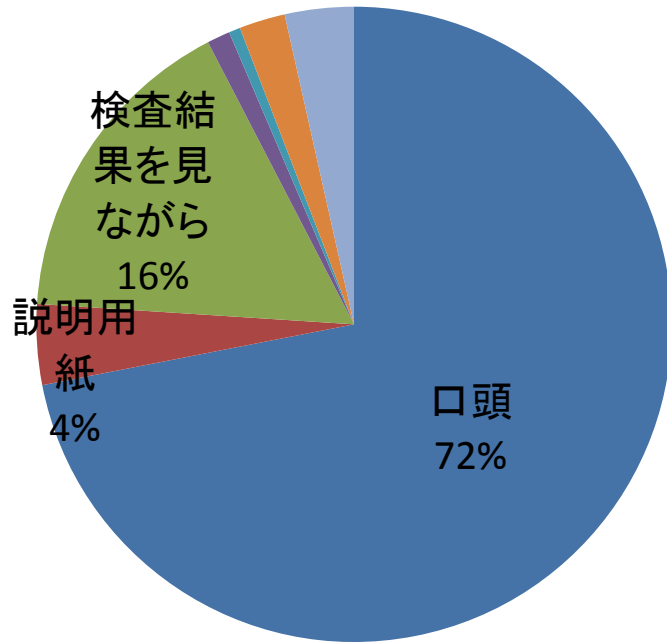
他の二次医療圏
C病院



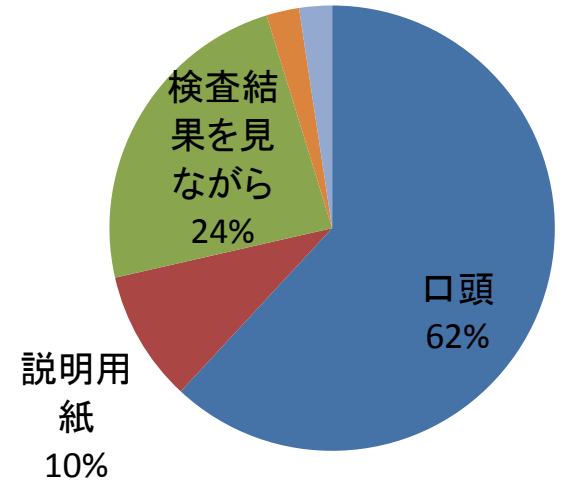
A病院とB病院は隣接二次医療圏から通院している患者の比率も高い。

病名告知の方法に関して

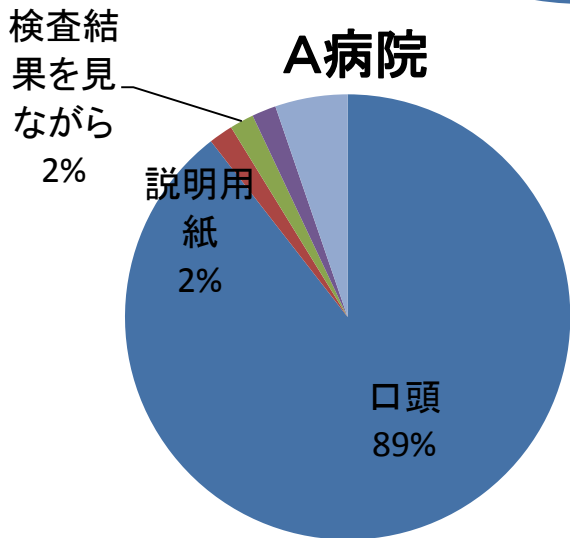
全体



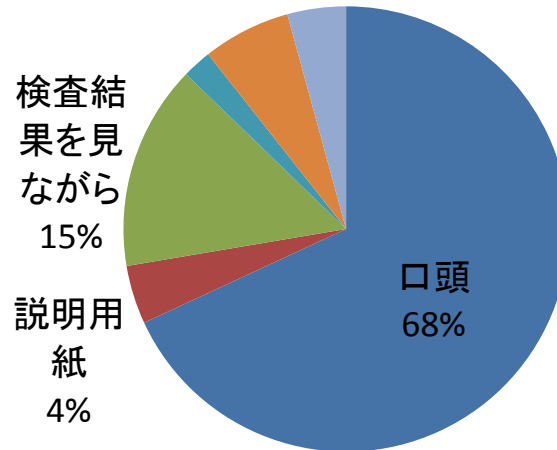
旭川医大



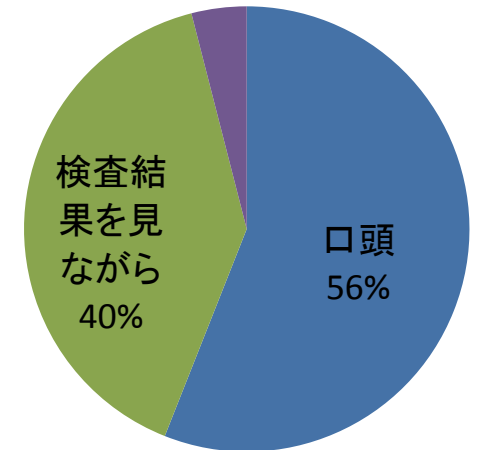
A病院



B病院



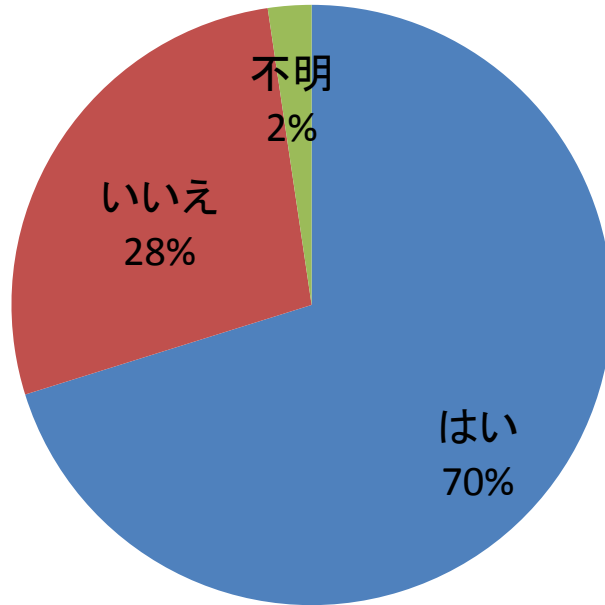
C病院



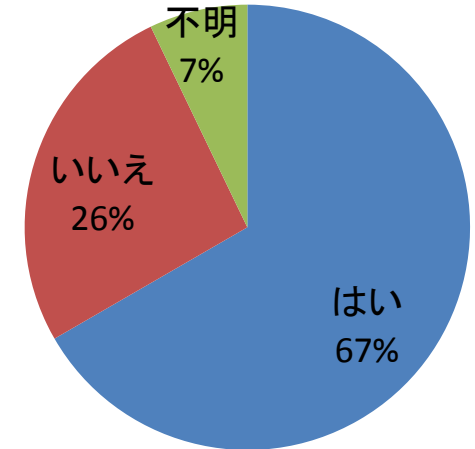
病状説明の方法は施設間で異なり、これは専門医の有無とは関連していない。

病名告知時の理解度に関して

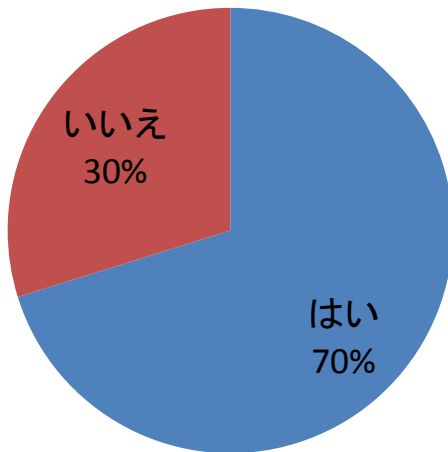
全体



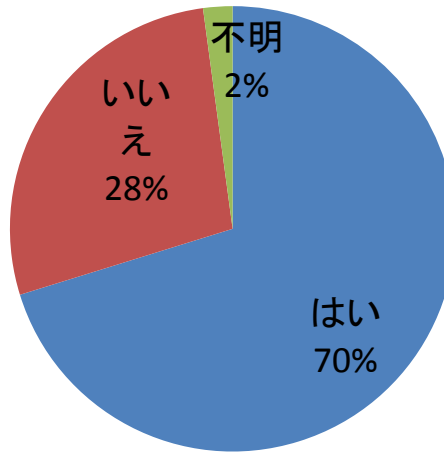
旭川医大



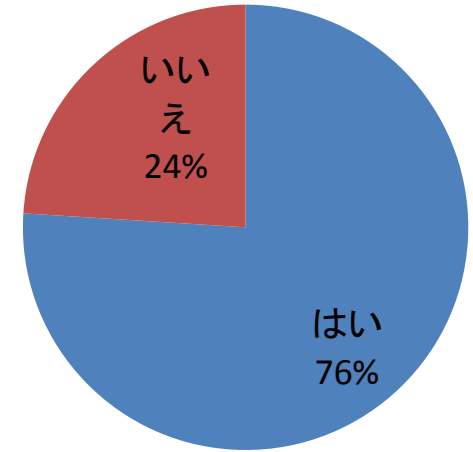
A病院



B病院

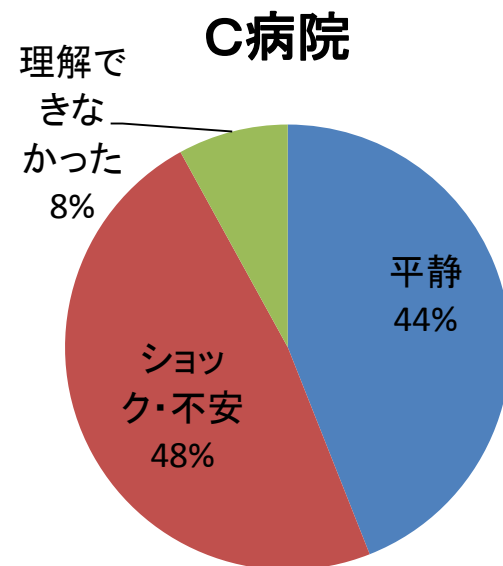
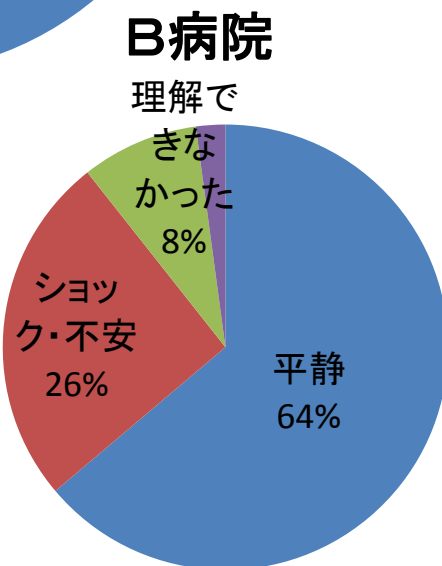
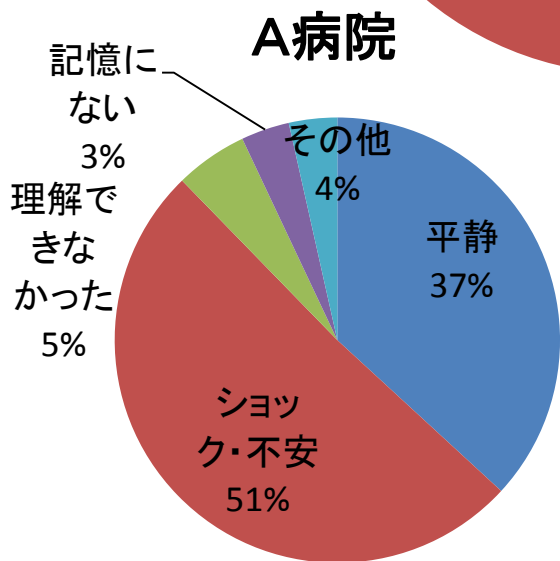
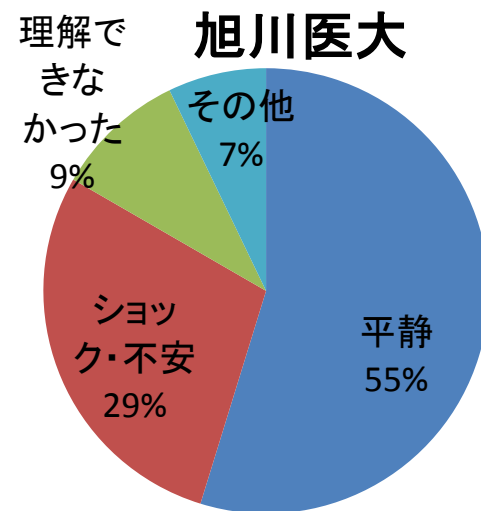
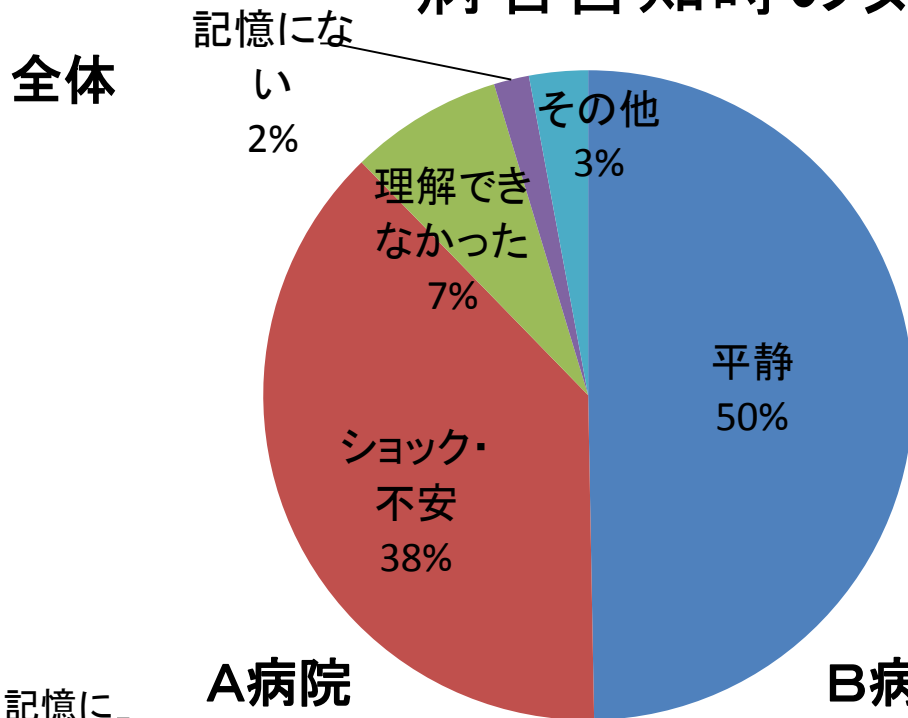


C病院



施設間で医師の説明に対する患者の理解度に差は認めなかった。

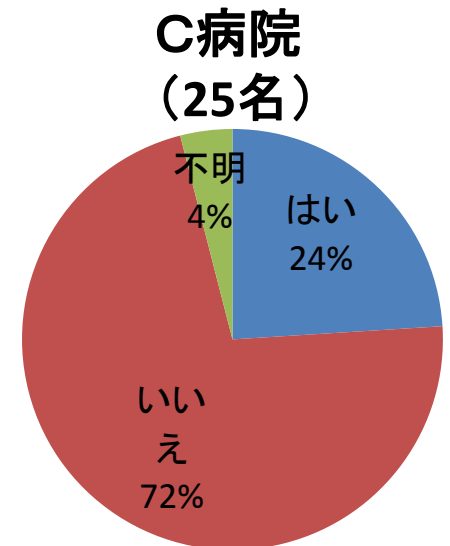
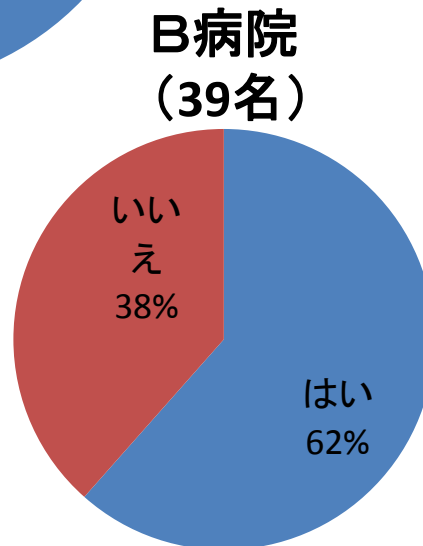
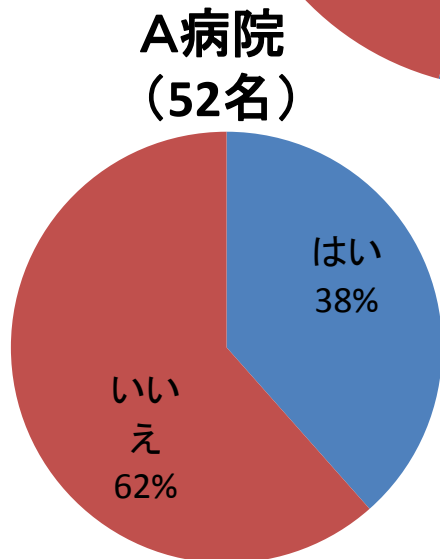
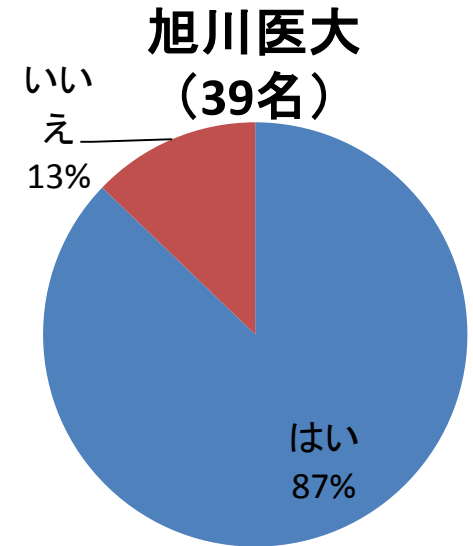
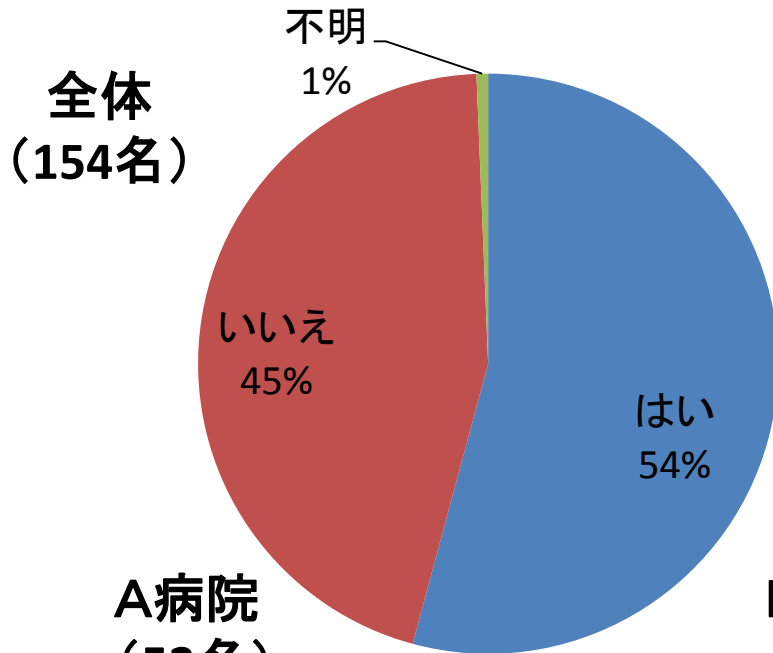
病名告知時の気持ちに関して



診療科として内科全般を標榜しているA病院、C病院の患者において不安感が強い傾向にあった。

医療助成(北海道単独事業も含む)の受給状況

ウイルス性肝炎・肝硬変・肝臓癌、PBC, AIHの患者:154人



内科全般を標榜しているA病院、C病院の医療助成申請率が低かった。
(調査対象者が助成対象基準を満たしているかは不明)

まとめ

- 拠点病院の旭川医大と過疎型医療を行っている関連施設へ通院している肝疾患患者171名に対して肝炎医療全般に関する聴き取り調査を行った。
- 地域中核病院においても二次医療圏をまたいで通院しなければならない病院アクセスの悪い患者が1割前後の比率で認められた。
- 地域・施設間で患者年齢層、病名告知時のストレス、医療助成受給率に差がみられた。
- 拠点病院における相談支援の周知、各施設におけるMSWスタッフの充実、患者会・患者サロンへの誘導が重要と考えられた。